

71名の新入生を迎えて新年度が始まりました。入学式、始業式、そして対面式などで見られた1年生の様子は、とても落ち着いていました。毎年最初にひかりホールに集まると、制服の袖のボタンが肘掛に触れて「カチャカチャ」という音が聞こえてきます。そんなとき、これまでは私からどのようにしてほしいかを伝えていたのですが、今年は「座るときにどんなことに気をつけたらよいのでしょうか」という私の問いかけに対して、2年生の子がその理由をわかりやすく説明してくれました。子どもたちがちゃんと分かっていることを私から言うまでもなく、子どもたちから子どもたちへきちんと伝えていけることを実感しました。こういう小さなことの積み重ねが日々の学校で大切にされなければならないと感じました。

【浦川先生のレポートから】

昨年度末の全体会で（1年生の保護者には入学後）、皆さんに浦川末子先生のレポートをお配りしましたがお読みいただけただけでしょうか。

その中で私が昨年直接ご講演をお聴きしたときのことも含めて特に印象に残っているのは、『全ての教育の出発点としての家庭教育の大切さ』と『「子どもの幸福のために」と親は必死に頑張っ育ててきたにもかかわらず、子どもの認識と大きくずれている。「子どものために」は、子どものためになっていなかったのである。

「子育ての本質」は、子どもが社会で生きていくための力をつけてやることだった』そして、『根を養えば、樹は自ら育つ』です。子育てに力を注いでいらっしゃる皆様にはごく当たり前のことだと思いますが、たまには他の方の考えに触れていただくこともよいのではないかと思います。ご紹介します。

このレポートを読み、桐光学園小学校の「意志・表現・感謝」の3つの心育ては、まさに人間としての「根を養う」ことに通じるものであると再認識し、子どもたちの成長を保護者の皆さんと一緒に応援できることを幸せに感じながらこれからも頑張ろうと思いを新たにしています。

【講演会のお話から】

4月22日の全体会の前に、KDDIの方から「インターネットの危険性と利用の仕方」についての講演をしていただきました。日時の設定については、講演会として別の日を設定するよりも多くの方にお話を聴いていただけるようにしたいという私たちの思いがありました。時間があればもう少し長くお話をお聴きしたかったのですが、こちらの時間の都合で短いお話にさせていただきました。学校から保護者の皆さんへの連絡が十分でなかったために、講演会が終わる頃に来校される方が多かったのはとても残念でした。次回からは、講演会も全体会の一つとお考えいただき、多くの方にご参加いただきますようお願いいたします。

さて、今回の講演の内容ですが、インターネットとは何かということから話をいただき、その開発目的は私たちが日常利用することと異なるものであったことも分かりました。それだけに、利用する側が十分にその内容を理解し、正しく使わないといけないこと、使い方を誤ると一瞬にして多くの人に迷惑がかかるだけでなく自分自身の損失も大きいこと、さらにそれは自分では責任を取れないようなものであり、悪意があるか否かを押し量ってもらえるようなものではないことも分かりました。

子どもたちが持つ携帯、スマホ、ゲーム機のほとんどがインターネットに接続できることから、その危険性についてはきちんと理解され、家族での話し合い、フィルタリング対策などが必要であることを強く訴えていらっしゃいました。

また、ゲーム機能を含めて、SNS、ライン、メール、ユーチューブにいたるまで、ネット上には子どもたちの正常な成長を阻害する可能性がある内容・機能がたくさんあります。それを全て禁止にすることは親の力を持ってできないかもしれません。できることは、親子で一緒に考えること、一方的なルールの押し付けではなく一緒にルールを決めることだと言えます。

【子どもの安全】

先日、校外でこれからお子さんを小学校へとお考えの方たちにお話をさせていただき機会がありました。

そのときに「子どもの安全、親と手をつなぐことで」という話をさせていただきました。親も子も忙しい毎日。目的地にいかにか早く到着するかを考えることも多いでしょう。電車での移動の際も、目的地までの経路、所要時間などが瞬時に分かります。そして調べたことに合わせなければならないような気持ちになってしまいがちです。そのようなときに、親の手にあるのは荷物とスマホ、子どもと手をつなぐ余裕がなく、子どもは親のあとを必死についていきます。少し大袈裟な表現だったかもしれませんが、これに近い状況を皆さんもご覧になったことがあるのではないのでしょうか。

親と手をつないだときに伝わってきた温かさは大人になっても忘れることができません。親はそのときに、温かさだけでなく、その力の入れ方で、子どもにたくさんのことを教え、伝えることができます。言葉だけでは伝えられないものをそのときにちゃんと子どもに感じさせることができます。素敵なことです！